



真備災害すごろく 遊び方



☆真備災害すごろくを作った背景

私たちは、西日本豪雨で被害の大きかった倉敷市真備町や小田郡矢掛町の方からお話を伺いました。その中で、被害を受けた方とそうでない方との間に「災害に対する気持ちの違い」があると知ったことが、この真備災害すごろくを作成するきっかけになりました。

このすごろくを通して、被災された方もされてない方も共に災害と向き合い、お互いがゆっくりと話しながら交流することで、気持ちの温度差を埋めることに繋がればと思います。また、「真備災害すごろく」という形で、災害の記憶が多くの人に受け継がれていくことを願います。

1. 準備

①準備するもの

真備災害すごろく、サイコロ、コマ

②人数

4～6人



2. すごろく全体のルール

☆このすごろくは、それぞれのマスの内容について、自分の考えを周りの人に共有しながらみんなで考えを深める、対話を中心としたすごろくです。

- ・サイコロを振り、止まったマスの内容について話し合おう。
- ・マスが上下に分かれている場合、「被災経験のある人」は上のマスの内容を、「被災未経験の人」は下のマスの内容をそれぞれ答えよう。
- ・「①②写真洗浄マス」「③ハザードマップマス」「④オレンジラインマス」「⑤警戒レベルマス」のクイズマスに止まった人は、クイズを解いた後、それぞれに対応した裏面の説明にも目を通し、周りの人と考えたことを話し合おう！



①写真洗浄

真備町写真洗浄会は 2018 年に創立しました。7 月の豪雨災害にて被災した写真の洗浄作業を倉敷市災害ボランティアセンターの依頼で受託し、結成しました。写真洗浄を行う際は、まず初めに色落ちを防ぐ為にしっかり乾燥します。私達も写真洗浄を体験させて頂き、写真が綺麗になり嬉しかったです。写真の色が戻らない場合もありますが、コンピュータを使って復元できます。皆さんも是非写真洗浄に興味を持ち、体験してみてくださいね。Facebook アカウント名は真備町写真洗浄@あらいぐま岡山です。閲覧して下さい。写真洗浄という身近なボランティアをしてみませんか？

②写真洗浄の曲の歌詞についての問題

この歌は真備町写真洗浄の皆様が、作られたものです。

ボランティアの目的は復旧を早く行うだけではなく、ボランティアの取り組みによって人や街を元気に・笑顔にすることです。

この歌からは、真備町写真洗浄さんの温かい取り組みが感じられると思います。災害に伴うボランティアに求められるもの・必要なもの・大切なことは何か、ぜひ考えてみてください。

③ハザードマップについての問題

災害による被害を予測してその被害範囲を地図化したものです。地図上では避難場所や避難経路なども確認することができます。また、ハザードマップにはさまざまな種類があり、その地域の地形や気候などの特徴によってハザードマップの種類は異なっています。例えば、真備町では洪水や土砂災害のハザードマップがあります。

「〇〇市ハザードマップ」など 検索すると簡単にハザードマップを見ることができるので、家族や周りの人と一緒に確認してみましょう！

④オレンジラインについての問題

小田川が決壊した時に到達する予測水位を示したオレンジの線です。小田川の堤防の高さと同じ、地上から 5 メートルの所に引かれています。実際、2016 年の西日本豪雨ではこのラインまで水が達したそうです。

災害時に身を守るためには、常に「もしも」を考えて行動することが大切なのだと、オレンジラインは教えてくれる存在ではないでしょうか。

⑤警戒レベル

災害発生の危険度と取るべき避難行動を直感的に理解するための情報です。レベル 1 で心構えを、レベル 2 で避難行動の確認が求められ、レベル 3 で高齢者が、レベル 4 で全員が避難を勧告されます。そして、レベル 5 では直ちに身の安全を優先する必要があります。私も学ぶまでは曖昧な理解でした。この機会にぜひ覚えてしまいましょう。